

【質問1】

1 - (1) あなた自身による「自己紹介」をお願いいたします。

広川 さとみ

<生い立ち>

昭和 26 年 12 月 9 日 国家公務員の父、小学校教員の母のもと、浦賀で生まれ、育ちました。

<学歴>

横須賀市立高坂小学校卒業

関東学院六浦中学校卒業

関東学院六浦高等学校卒業

慶應義塾大学経済学部卒業

<職歴>

昭和 50 年 横須賀市役所入庁（市民税課）

以降、秘書課、財政課、プロジェクト課、企画調整室等に勤務

情報政策課長、企画調整部副部長、企画調整部長等を歴任

平成 21 年 12 月 横須賀市副市長就任

平成 24 年 12 月 同副市長退任

市職員として、横須賀リサーチパーク（YRP）の整備、電子自治体の整備、
市役所の経営改革他市運営の企画・調整業務全般に従事してきました。

また、国の委員会にも自治体職員として参画し、現場の状況を国に伝えてきました。

<家族>

今年 89 歳を迎える母、保育士として働いていた経験をもつ妻との 3 人で、浦賀で暮らしています。
このほか、すでに独立した娘 2 人と息子がいます。

<好きなもの>

横須賀のまち

釣り マウンテンバイク スキー 愛犬・小哲（柴犬 10 歳オス）の散歩

<座右の銘>

「一期一会」

これまで市役所に勤務している間も、市長選挙に出馬を決意してからも、多くの
皆さまに出会い、いろいろなことを教えていただき、また、助けていただきました。
これまでの御恩返しに、皆さんとともに変革を進め、横須賀のまちを再生します。

1-(2) これまでの4年間の市政を100点満点で何点と評価しますか。また、そう考える理由をお答え下さい。

100点満点で [50] 点

(理由)

前回の市長選挙の頃は、横須賀市をはじめ日本の各地域は、出口の見えない長引く景気低迷により、多くの人々が閉そく感を強く感じる状況にありました。

そのような中、「チェンジ」を掲げる若き候補者が登場し、「この人ならば、これまでの行政とはまったく異なる発想や方法で、行き詰った現状を打破し、希望に満ちた暮らしを実現してくれるのでは」という多くの期待を受け、見事に当選されました。

しかし、その後、具体的なチェンジは見受けられず、横須賀のまちは停滞したままです。当初の期待が大きかっただけに、この4年間で、多くの人に計り知れない落胆を残しています。

一方、それ以前の4年間、すなわち、前の市長の時代から準備が進められていた、特別養護老人ホームの増設や児童養護施設の整備、企業の誘致などについては、「前任者が手を付けたことなので、自分は引き継がない」といった対応はせずに、粛々と計画を進めたこと、この点は評価できると捉えています。

【質問2】 今回の横須賀市長選は、市民に何を問う選挙であるとお考えでしょうか？ ご記載下さい。

「横須賀のまちを再生させるための、実行力のあるリーダーは誰か」を問う選挙です。

いま、求められるのは実行力

いまの横須賀には多くの課題があり、どれもが待ったなしの状況です。

しかし、大半の課題は市だけの取り組みだけでは、解決できません。地域の皆さんのお力をはじめ、国や県、さらに近隣の自治体など、あらゆる力を結集して臨む必要があります。

そして、このようにすべての力をお借りし、束ねられる能力が、まさに「実行力」です。

実行力を発揮するには

➤夢が語れること

どこに向かって進んでいるのかがわからないと、力を結集することはできません。

そのためには、最終目標、すなわち夢が語れることが必要です。

すなわち、ビジネスの世界における「ビジョンを示す」ということです。

➤「がむしやら」であること

夢は願っているだけでは叶いません。

夢の実現のためには、突き進んでいくことが必要ですが、これは、簡単なことではありません。また、努力しても十分な結果が得られないのではという不安感を持ってしまったり、面倒な気持ちが先に立ったり、プライドが邪魔をしたりしてしまうようなことも、夢の実現を阻害しがちです。

しかし、それらを乗り越え、あらゆる手段を講じて夢を実現させるという食欲さ、「がむしやらさ」、まさに「攻めの行政を進める」ことが必要なのです。

➤信頼感があること

夢が語れて、「がむしやら」であっても、信頼がなければ、力は結集されません。

互いによく知った仲であれば、その相手が信頼できるかどうかを判断することは、簡単です。しかし、あまり相手のことを知らない場合は、多くの方は、自分が信頼している人がその相手を信頼しているかどうかで、判断するのだと思います。

つまり、どれだけ「人の輪がある」かが、信頼に繋がるのです。

まさに、問われていることは

夢が語れ、その実現のために「がむしやら」で、信頼できるリーダーは誰かを問うこと。

今回の市長選挙は、まさにそのための選挙です。

◆夢を語ると、“あした”が見えてきます

たとえば、こんな夢、あんな夢…

●地域がうるおう

- 追浜、中央、衣笠、浦賀、久里浜など各地域の商店街が、それぞれ個性を発揮して賑わう
- それぞれの個性に惹かれ、いくつもの商店街を巡る買い物客が増える
- 佐島、長井などの海産物のブランド力が一段と高まり、市外からの来訪者が増える
- 新技術の導入により、農水産物の収穫量が安定する
- 横須賀の工業の高い技術力を求めて、新規の発注が拡大する
- 工業製品の地産地消が促進し、相乗的に経済効果が拡大する
- 道路網が整備され、人と物の往来が活発化する

●若者の憧れの街になる

- 美術館で画家を志す若者の展覧会やオークションを行い、美術館が若手画家の登竜門となる
- デザイナー工房や服飾専門学校を呼び込み、横須賀発のファッションブランドが創出される
- ナショナルトレーニングセンターを誘致し、世界レベルのスポーツ選手が輩出される
- 個性に応じた将来が選べることで、横須賀が若者の憧れの街となる

●みんながいきいきと暮らす

- 多様な幼児教育、待たずに利用できる保育サービスの提供で、子育て世代が増える
- リタイヤ世代の地域貢献により、学童保育が充実する
- 生きがいをもつ高齢者が増え、健康長寿が実現される
- 歴史資源を掘り起こし、観光振興とともに地域文化も振興し郷土愛が育まれる

【質問3】あなたが今、最も重要だと思われる横須賀市政上の重点政策を順に3つ挙げ、選択した理由などについてご記載ください。

第1位

＜重点政策＞

産業政策・経済活性化

＜選択理由＞

経済は、すべての活動の源です。

また、市民の皆さんの日常生活でも、子育て支援などの行政サービスを行う上でも、あらゆる場面でお金が必要となります。

さらに、この分野は、重点的に取り組んでも、成果が表れるまでに相応の期間を要するものもあることから、まず、何よりも優先して取り組むべきものと位置付けます。

第2位

＜重点政策＞

教育・子育て環境向上

＜選択理由＞

働きたくても保育サービスが不足していきらめている方、より良い保育や幼児教育に取り組みたくても人材不足に悩むサービスを提供する側の皆さん、子どもの医療費の負担など、子育て支援に関する問題は、まさに「いますぐの課題」です。

さらに、教育は10年、20年先に効果が生まれてくるものであり、早期の取り組みが重要な分野です。

第3位

＜重点政策＞

経験豊かな皆さんのお力を地域貢献にお借りする仕組みづくり

(生きがいを感じられる環境の提供による健康長寿の実現と住み良いまちづくりの実現)

＜選択理由＞

横須賀には、いろいろな経験を積み、社会貢献の意欲をもった方が多くいらっしゃいます。

そのお力を貸していただく仕組みをつくりあげれば、健康長寿と住み良いまちづくりの双方が実現できます。

2015年・2025年問題を間近にしているいまだからこそ、取り組むべき課題です。

【質問4】政策テーマ別質問

次に掲げる各テーマの政策について、どのような具体策をお考えでしょうか。可能な限り具体的項目、実施期限や実行方法、財源にも触れていただくようお願いいたします。

4-(1) 産業政策・経済活性化について

① 市街地の活性化

- ・横須賀中央エリア、追浜地区、浦賀地区をはじめ、市街地の再開発事業等に、市が積極的に関与し、前面に立ち、民間の力も呼び込んで推進します。

② 研究機関等の集積を生かした活性化

- ・横須賀の強みである研究機関や先端産業の集積、市内工業の高い技術力を生かして、国が主導する新分野の研究開発プロジェクトを横須賀市で実施してもらうよう提案し、新製品の開発、新分野の産業の創出や誘致を行うとともに、既存産業の成長を促進します。

③ 物流面からの活性化

- ・国道357号の延伸と横浜横須賀道路通行料の値下げにより、物流速度の向上と物流コストの低下を実現します。

④ 地域経済面での活性化

- ・専門学校や高等教育機関の誘致などからも、地域の購買力を向上させます。
- ・農水産物の地場物を積極的に取り入れ、市内事業者さんにも協力いただく形で中学校給食を実施し、中学生に対して栄養に配慮した食事の提供、地産地消の推進、地域経済の活性化を実現します。
- ・農水産物の収穫量を安定化させるため、農水産業を営む方に、全国で進められているハウス栽培や養殖の研究成果をお伝えしたり、新たな取り組みを始めるための融資制度を構築します。

⑤ 観光面からの活性化

- ・三浦半島には、日帰り観光では回りきれないほどの多くの自然、歴史、地場産の食など魅力に満ちていますので、これらを発掘、発信し、それぞれを結ぶバスや船などの交通手段を確保して「海遊回廊」を創り、周遊観光客を増加させて経済効果を拡大します。
- ・また、地域の送迎バス等を活用することで、交通困難地域での集客策にも取り組みます。

⑥ 金融制度面からの活性化

- ・一度つまずいても、もう一度チャンスが得られるよう、地域の金融機関にご協力いただき、再チャレンジ可能な融資制度を構築し、各企業の成長促進、雇用の安定化を進めていきます。
- ・融資に関する手続きを簡略化するよう制度の見直しを図ります。

【財源について】

- ・経済の活性化は最優先に取り組むべきものですので、市の貯金（財政調整基金）を割り当てても実行すべきと考えていますが、国からの資金援助が見込めそうなものは、これまでに培ってきた国との関係を生かして、国から資金を獲得します。
- ・さらに、将来的には、市税収入の増加を見込みます。

4 - (2) 行財政改革について

① 市長の給料等の削減

- ・市長の月々の給料を30%カットします。
- ・市長の退職手当を50%カットします。

② 再任用による人件費削減

- ・定年退職者分の人員の補充は、再任用職員の配置を優先し、経験を生かした業務遂行と人件費の削減を実現します。

③ 民間活力の積極的導入

- ・市が直接行っている業務のうち、民間委託が可能なものは積極的に民間活力を導入します。
- ・コンセッション（運営権）方式の活用も視野に入れます。
- ・社会貢献の意欲をもった方のお力を貸していただく仕組みをつくり、経費を抑えつつ、豊富な経験に基づく取り組みを進めていきます。

④ 国からの資金獲得

- ・国からの資金をより多く獲得します。

4 - (3) 地域の安心・安全（防災・防犯・福祉・医療・介護・セーフティネット等）について

① 災害に負けないまちづくりの推進

- ・大規模な災害への対応は、「誰かがやるもの」ではなく、「誰もがやるもの」です。個人、町内会などの地域、そして行政が、それぞれのできることとできないことをしっかりと共有して、相互に補完できる体制とし、災害に負けないまちづくりを推進します。

② 上下水道施設の更新

- ・老朽化している上下水道施設を更新することで、災害への備えを進めるとともに、上下水道局職員や市内事業者の技術継承も推進します。

③ 医師会・歯科医師会との連携強化

- ・医師会・歯科医師会と密接に連携し、検診や口腔ケアの充実による疾病予防、新たな救急医療センターを核とした救急体制の整備、生活の質の向上を最重要視した緩和ケアなど、医療・歯科医療の一貫した提供体制を構築します。

④ 親なきあと問題への取り組み

- ・なんらかのハンディキャップを抱えたお子さんをお持ちのご家庭では、親なきあとへの不安はより一層大きいものです。この不安とともに向かい合い、まずは継続的な介護のもとで不自由なく生活できる拠点や住まいの確保、専門職による信頼ある資産管理、生活サポート体制の確立に取り組みます。

⑤ 地域包括ケア体制の整備

- ・健康長寿には、生きがいをもって暮らすことが重要といわれています。一方、高齢者の皆さんが職場や家庭で培われた経験は、横須賀にとって貴重な財産です。これまでのご経験を地域貢献に生かせる仕組みをつくりあげ、このように社会と関わりを持っていくことで、体力や気力のちょっとした衰えに気が付き、適切な介護サービスを提供する体制を整備します。

【財源について】

- ・上下水道施設の更新の財源については、国の防災力向上政策に呼応する形で実施し、国からの資金を獲得します。

4 - (4) 教育・子育て環境向上について

① 多様な保育サービスの提供・幼児教育の充実

- ・幼稚園・保育園のあり方について、国の考え方は二転三転し、現場の戸惑いは大きなものがあると考えます。目先に捉われず将来を見据えた横須賀ならではの、柔軟な子育て支援策を実施します。
- ・まずは、市街地再開発事業の中に保育園を含めたり、幼稚園教員や保育士の育成支援を行うことで、待ちの無い多様な保育サービスの提供・幼児教育の充実を図ります。

② 小学校6年生までの医療費無料化

- ・小学生は、まだあまり体力も備わっていないことから、病気になることも少なくありません。
- ・そこで、無料化の対象を小学校6年生までに拡充し、安心して通院できるようにすることで、子育て世帯の経済的な負担の軽減と安心感をお届けします。

③ すべての小学校での学童保育の実現

- ・学内学童クラブがなかなか進まないのは、施設管理の課題があるためです。
- ・そこで、各学校に授業終了後の施設管理を担当する職員を配置し、すべての小学校での学童クラブを実現します。
- ・また、教員OBの方々などの知識や経験をお借りして、子どもたちの生活や学習をサポートします。

④ 中学校給食の実施

- ・育ち盛りの中学生に対し、お弁当持参と学校での給食を選べる方式での給食を実施します。
- ・横須賀の強みである地元産の新鮮で安全な食材を使えば、子どもたちの健康面にも良いですし、農水産業の皆さんには安定的な需要先が確保されることとなります。さらに、子どもたちの横須賀への想いを育てることに繋がります。
- ・実施にあたっては、市内の事業者の方に調理をお願いし、各学校へ配送する方法をとります。
- ・市内の各商店の方々にも力を貸していただき、子どもたちの成長と地産地消の推進、地域経済の活性化も見据えた中学校給食を実現します。なお、実施に先立って、十分な調査検討を行います。

⑤ 学校や教員のサポート体制の構築

- ・学校現場の教員には、子どもと向き合う時間がなくなってしまうほど、いろいろな仕事がありすぎる状況です。そこで、さまざまな経験を積み、社会貢献の意欲をもった方々の力をお借りして、組織だって学校や教員をサポートする仕組みをつくり、教員が子どもたちと向き合える環境を整えます。

⑥ 個性に応じた将来を選択できる環境の提供

- ・子どもたちは、無限の可能性を秘めていて、その個性や能力を伸ばしていくことも教育の大きな役割です。
- ・統合によって使われなくなった学校の校舎や校庭を活用し、科学や芸術、スポーツなどの分野で活躍している横須賀ゆかりの方々や、教員OBの方々などのお力をお借りし、学校の枠に捉われず、さまざまな内容の校外教育を実施します。
- ・次に、興味をもった分野で、もっと学びたいと考える子どもたちに対し、例えば、芸術劇場や美術館を若手アーティストの登竜門とするほか、いろいろな分野の専門学校や、オリンピックレベルの選手を育成するナショナルトレーニングセンターなどを誘致します。
- ・このように、子どもたちに、多様な学びの場を提供することで、横須賀を若者たちにとって憧れのまちにしていきます。

【財源について】

- ・小児医療費助成拡大の財源は、既存事業の見直し及び消費税増税に伴う市税増加分とします。
- ・中学校給食実施の財源のうち初期の設備投資分は、国の補助金を獲得します。
- ・それ以外の事業の財源は、既存事業の見直しなどで対応します。

4 - (5) その他（自由にご記載願います）

<政策テーマ>

経験豊かな皆さんのお力を地域貢献にお借りする仕組みづくり
(生きがいを感じられる環境の提供による健康長寿の実現と住み良いまちづくりの実現)

<具体的な内容>

「趣味や生きがいを持って、楽しく前向きに暮らすこと」、疾病予防や介護予防の秘訣としてよく耳にする言葉ですが、長い間仕事一筋に打ち込んでこられた方、家庭の切り盛りで精一杯だった方などには、「そんなことをいま言われても」というのが正直な思いかもしれません。

しかも、このような皆さんが職場や家庭で培われた経験は、横須賀にとって貴重な財産であり、埋もれてしまうのは、大変もったいないことです。

現在の横須賀市は、これまでも言及してきましたように、子どもと向き合う時間が満足にとれないほど、先生に仕事がありすぎる学校現場、指導員の確保に苦勞している学童クラブなど、マンパワーがあれば解決できる課題が多い状況にあります。

そこで、経験豊かな皆さんのお力を貸していただく仕組みを、現場任せにするのではなく、責任をもってつくりあげます。

誰かの役に立っていると実感すると、生きがいを強く感じるといいます。

これまでの経験を地域貢献に活かせる仕組みをつくり、それによって、健康長寿と住み良いまちを実現します。